特　記　仕　様　書

１．　本特記仕様書は、宇治市公共下水道管路施設調査業務委託（折居台地区ほか）（以下「本業務」という。）に適用する。

２．　本業務は、公共下水道管路施設点検調査業務委託 標準仕様書（以下「標準仕様書」という。）に基づき実施するものとする。

３．　本業務は、下水道管路施設の老朽化及び破損等の確認を行うものである。

４．　本業務において貸与する資料については、担当職員が認めるもの以外は複写してはならない。

５．　個人情報の取扱いには、十分注意するとともに、秘密保持を厳守し、適切な保管に努めること。また、目的外の使用を禁止し、目的完了後、直ちに返却すること。
万が一個人情報が漏洩した際は、速やかに担当職員に報告するとともに受注者が責任を持って対処すること。

６．　本業務の作業時間は原則として、昼間 9:00～17:00 とするが、道路管理者・所轄警察署・地元自治会等との協議により、作業時間の変更（夜間作業を含む）が必要な場合は、担当職員との協議のうえ変更するものとする。なお、作業時間に変更が生じた場合は、担当職員との協議により、設計変更の対象とする。

７．　本業務の業務概要は以下のとおり。

（１）マンホール目視調査工　N＝334 箇所

マンホール目視調査工については、本管の調査と合わせて実施するものとし、標準仕様書第４章第２条の５目視による調査（３）に基づき行うこと。また、標準仕様書第３章第２条の８に基づきマンホールふたの点検についても実施し、調査結果を別紙「マンホールふた及び内部の点検・調査記録表」にて作成すること。

なお、マンホールふた欄には調査内容と合わせ、別紙の「宇治市マンホールふたタイプ変遷表」に記載のタイプを記載すること。

（２）本管テレビカメラ調査工（φ150～800㎜未満）L＝7,214m

本管テレビカメラ調査工については、スクリーニング調査であるが、標準仕様書第４章第２条の４テレビカメラによる調査に基づき行うこと。なお、異常個所について側視撮影も必要となることから、事前に高圧洗浄車での管路内洗浄を実施する。

（３）報告書作成工

上記作業（１）及び（２）については、各々標準仕様書及び下水道管路施設調査報告書記載要領（以下「調査報告書要領」という。）に基づき報告書を作成すること。写真については、デジタルカメラで撮影するものとし、各記録表と写真は、管理番号等を工夫するなどして対象物件との確認がしやすいようにまとめること。
なお、スクリーニング調査についても、原則として標準仕様書及び調査報告書要領に記載のとおりとするが、側視を実施せず直視のみでの判定になるため、判定方法等については担当職員と協議し決定すること。
これら報告書の作成方法や整理方法等については、担当職員と協議しなければならない。なお、提出部数は２部提出とする。（電子媒体によるデータを含む）

８．　安全施設類の設置等について

（１）安全対策については、交通誘導警備員を昼間 54 人を計上しているが、道路管理者及び所轄警察署の打合せの結果により変更等が生じた場合は設計図書に関して担当職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。
また、条件変更及び受注者にて特に必要と認めた場合は、その対策等について設計図書に関して担当職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

（２）標識類、防護柵等の安全施設類については、「道路標識令」、「道路工事現場における標示施設等の設置基準」及び「道路工事保安施設設置基準（案）」等の諸基準により、現場状況に応じて設置するものとする。
（必要かつ十分な保安柵・仮囲い・道路標識・表示板その他適切な保安設備を的確に設置し、地元住民・通行人・運行車両等に危害や物件損害を及ぼさないようにする。）

また、警察等第三者との協議に基づき安全対策を実施するものとする。

（３）受注者は、事前に業務処理計画書にて「安全施設類等設置計画書及び計画図」を担当職員に提出し、協議しなければならない。

（４）受注者は、調査期間中の安全施設類の設置状況が判断できるよう写真等を整理し報告しなければならない。

９．　本作業によりマンホールふたの開閉を行った結果、マンホールふたのガタツキ等が発生した場合は、受注者の責任により処置するものとする。

１０．マンホール目視調査を実施する際は常時換気を行うこと。なお、本業務ではマンホール目視調査実施の際のマンホール換気工として、22 日を計上している。

１１．地元との連絡調整及び作業説明用案内ビラの作成・配布等は、受注者が行うものとする。また、配布範囲等については担当職員と協議しなければならない。

１２．本業務における休日は、基本的に土曜日・日曜日・祝日・年末年始（令和 8 年 12 月 29 日から令和 9 年 1 月 3 日まで）の 6 日間を見込んでいる。ただし、土曜日に調査作業を行う必要がある場合は、担当職員と協議すること。また、祭事など地域の行事については極力協力し、必要に応じて作業を休止するものとする。

１３．調査車両等のアイドリングストップを励行すること。

１４．本業務において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

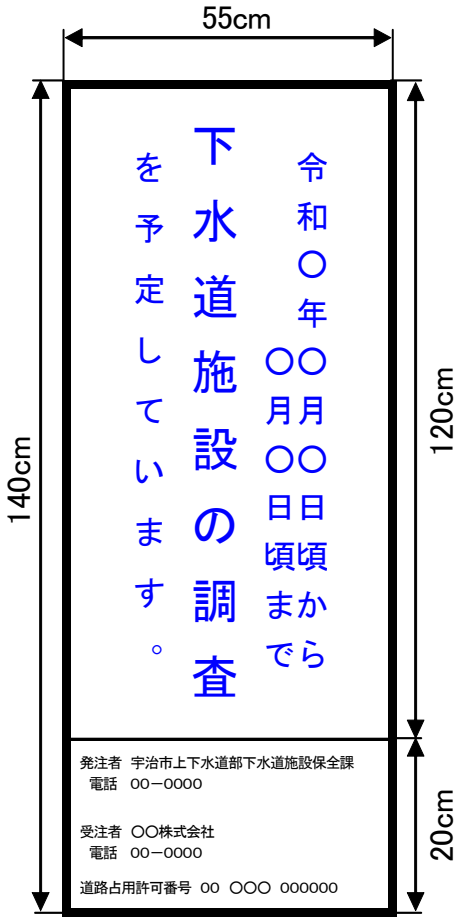
１５．本業務の積算で採用した適用積算基準ならびに見積歩掛は、（別紙）積算参考資料のとおりとする。なお、積算参考資料は、あくまで発注者が予定価格を算出する際の積算条件を参考までに示した資料であり、何ら契約上の拘束力を生じるものではない。

１６．　受注者は、調査の実施にあたって、調査作業現場の公衆が見やすい場所に、調査作業内容、調査作業期間、調査作業種別、発注者、受注者等を記載した標示板を設置しなければならない。なお、標示板を変更したい時、規格色彩等は、担当職員と協議すること。
記載項目のうち「調査作業内容」、「調査作業種別」については、以下によるものとする。

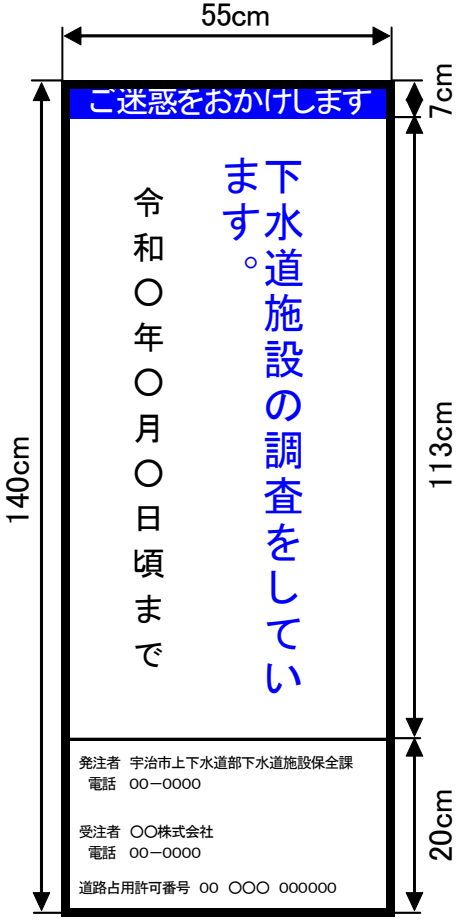
調査作業内容：下水道施設の調査をしています。
調査作業種別：下水道調査（管渠）

記載例

［調査情報看板］



［調査説明看板］



［調査情報看板］

設置期間	・管渠内調査を開始する1週間前から管渠内調査を開始するまで設置する。
設置位置	・予定されてる管渠内調査に関する調査情報を歩行者、沿道住民へ提供するため、歩道に設置する。
	・ドライバーから看板内容が見えないよう、歩道側に向けて設置する。
規格色彩等	・色彩は「令和〇年〇月〇日頃から」、「〇〇〇を〇〇する調査を予定しています」等の調査内容については、青色文字とする。
	・調査内容については、別添を参考に記載する。
	・その他の文字及び線は、白地に黒色とする。
	・道路上に設置する場合は、必要に応じ外枠に緩衝材(ソフトカバー)を付けること。
摘要	・1日で完了する軽易な調査、歩道のない箇所については、設置しない。
	・設置の要否は、沿道環境を考慮し、個別に判断。
	・調査開始時に速やかに撤去すること。

［調査説明看板］

設置期間	・管渠内調査開始から管渠内調査完了までの間設置する。
設置位置	・実施されてる管渠内調査に関する調査情報を歩行者、沿道住民へ提供するため、調査情報看板に代えて歩道に設置する。
	・ドライバーから看板内容が見えないよう、歩道側に向けて設置する。
規格色彩等	・色彩は「ご迷惑をおかけします」等の挨拶文については、青地に白抜き文字とする。
	・「〇〇〇を〇〇〇しています」等の調査内容については、青色文字とする。
	・調査内容については、別添を参考に記載する。
	・その他の文字及び線は、白地に黒色とする。
	・道路上に設置する場合は、必要に応じて外枠に緩衝材(ソフトカバー)を付けること。
摘要	・1日で完了する軽易な調査、歩道のない箇所については、設置しない。
	・設置の要否は、沿道環境を考慮し、個別に判断。

（別　紙）

【積算参考資料】

本積算資料は、あくまで発注者が予定価格を算出する際の積算条件を参考までに示した資料であり、何ら契約上の拘束力を生じるものではない。

■ 適用積算基準

・下水道施設維持管理積算要領－管路施設編－　2020年度版　公益社団法人 日本下水道協会

・下水道管路管理積算資料－2023－　公益社団法人 日本下水道管路管理業協会

■ 見積歩掛

B-2　　スクリーニングカメラ調査　φ150～800㎜未満

800ｍ当たり

名称	規格	単位	数量	摘要
測量技師		人	1	
測量技師補		人	1	
調査助手		人	2	
ライトバン運転工	1.5L二輪駆動	日	1	C-3
カメラ損料		日	1	

B-4　　報告書作成工（スクリーニング調査）　φ150～800㎜未満

600ｍ当たり

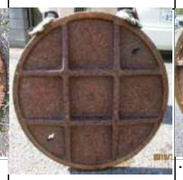
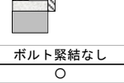
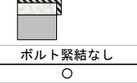
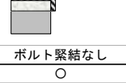
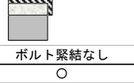
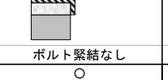
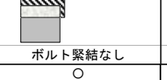
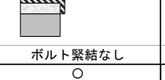
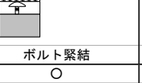
名称	規格	単位	数量	摘要
管理主任技師		人	0.3	
管理技師		人	1	
調査技師		人	1	
調査助手		人	1	
諸雑費	労務費の5％	式	1	

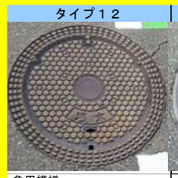
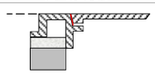
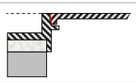
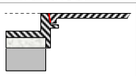
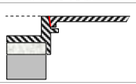
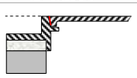
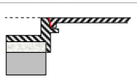
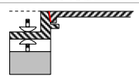
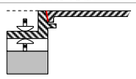
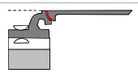
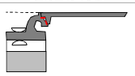
C-3　　ライトバン運転工　1.5L二輪駆動

1日当たり

名称	規格	単位	数量	摘要
ガソリン	レギュラー	L	23	
運転手（一般）		人	1	
ライトバンガソリンエンジン駆動	乗車定員5名　排気量1.5L	ｈｒ	6	

宇治市　マンホールふたタイプ変遷表（令和８年版）　呼び径６００㎜

	タイプ１	タイプ１-1	タイプ２	タイプ３	タイプ４	タイプ５	タイプ６	タイプ６-1	タイプ７	タイプ７-1	タイプ８	タイプ９	タイプ１０	タイプ１１
ふた表														
特徴	・取っ手２箇所	・取っ手２箇所	・幾何学模様 ・カギ穴２箇所 ・ガス穴８箇所	・JIS模様 ・カギ穴２箇所 ・コジリ穴２箇所	・都市デザイン模様 ・カギ穴２箇所	・幾何学模様 ・フック穴２箇所	・幾何学模様 ・フック穴２箇所	・幾何学模様 ・カギ穴（特殊）２箇所	・幾何学模様 ・カギ穴２箇所	・JIS模様 ・カギ穴２箇所	・JIS模様 ・カギ穴２箇所 ・コジリ穴２箇所	・JIS模様 ・カギ穴２箇所 ・コジリ穴１箇所	・幾何学模様 ・カギ穴１箇所	・亀甲模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴１箇所
ふた裏														
特徴	・かぎ無し ・蝶番無し	・かぎ無し ・蝶番無し	・蓋裏井桁リブ	・蓋裏リブなし	・蓋裏リブなし	・蓋裏井桁リブ	・蓋裏井桁リブ	・蓋裏放射状リブ		・蓋裏井桁リブ	・蓋裏井桁リブ	・鎖連結 ・蓋裏井桁リブ	・蓋表蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋表蝶番 ・蓋裏井桁リブ
設置年（推定）	昭和45年～ （1970～）	昭和43年～ （1968～）	昭和48年～ （1973～）	昭和56年～ （1981～）	平成4年～ （1992～）	昭和51年～ （1976～）	昭和56年～ （1981～）	昭和53年 （1978）	昭和55年～ （1980～）	昭和56年～ （1981～）	昭和58年～ （1983～）	昭和53年～ （1978～）	昭和45年～ （1970～）	昭和53年～ （1978～）
材質 ふた	コンクリート	コンクリート	FC	FC	FCD700	FCD	FCD	FCD	FCD	FCD	FCD	FCD	FCV	FCD
材質 枠	FC	コンクリート	FC	FC	FCD600	FCD	FCD	FCD	FCD	FCD	FCD	FCD	FCV	FCD
支持構造	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	平受け	緩勾配受け	緩勾配受け	緩勾配受け
支持構造														
MHとの緊結状況	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし
安全機能項目（注） がたつき	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	△
破損	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
浮上・飛散	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
不法投棄浸入	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
転落・落下	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
雨水流入	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
スリップ	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
腐食	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

	タイプ１２	タイプ１３	タイプ１４	タイプ１５	タイプ１６	タイプ１７	タイプ１８	タイプ１９	タイプ１９-1	タイプ２０	タイプ２１	タイプ２２	タイプ２３	タイプ２４
ふた表														
特徴	・亀甲模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴３箇所 ・口環枠	・幾何学模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴３箇所	・幾何学模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴３箇所	・幾何学模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴１箇所	・都市デザイン模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴３箇所	・亀甲模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴３箇所	・幾何学模様 ・カギ穴１箇所 ・コジリ穴１箇所	・亀甲模様 ・長バール穴１箇所 ・コジリ穴２箇所	・亀甲模様 ・長バール穴１箇所 ・コジリ穴２箇所	・都市デザイン模様 ・長バール穴１箇所 ・コジリ穴２箇所	都市デザイン模様 長バール穴１箇所（SUSﾊﾟｯｷﾝ） コジリ穴２箇所	・耐スリップ模様 ・長バール穴１箇所（SUSﾊﾟｯｷﾝ） ・コジリ穴２箇所	・耐スリップ模様 ・長バール穴１箇所（SUSﾊﾟｯｷﾝ） ・コジリ穴２箇所	・耐スリップ模様 ・長バール穴１箇所（SUSﾊﾟｯｷﾝ） ・コジリ穴２箇所
ふた裏														
特徴	・蓋表蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋表蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ ・閉塞機能	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ ・閉塞機能	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ ・閉塞機能	蓋裏蝶番 蓋裏井桁リブ 浮上防止ﾛｯｸ付統合型錠機能	・蓋裏蝶番 ・蓋裏井桁リブ ・浮上防止ﾛｯｸ付統合型錠機能	・蓋裏蝶番 ・蓋裏放射線状リブ構造 ・浮上防止ﾛｯｸ付統合型錠機能	・蓋裏蝶番 ・蓋裏放射線状リブ構造 ・浮上防止ﾛｯｸ付統合型錠機能
設置年（推定）	昭和58年～ （1983～）	昭和56～60年 （1981～1985）	昭和59年 （1984）	昭和58年～ （1983～）	昭和61～平成4年 （1986～1996）	昭和61年～ （1986～）	昭和60年～ （1985～）	昭和59年～ （1984～）	昭和59年 （1984）	平成5～14年 （1993～2002）	平成14年～現在 （2002～現在）	平成15年～現在 （2003～現在）	令和3年～7年 （2021～2026）	令和8年～現在 （2026～現在）
材質 ふた	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700	FCD700
材質 枠	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600	FCD600
支持構造	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	急勾配受け	多段勾配受け	多段勾配受け
支持構造														
MHとの緊結状況	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結なし	ボルト緊結	ボルト緊結	ボルト緊結	ボルト緊結	ボルト緊結	ボルト緊結
安全機能項目（注） がたつき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
破損	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
浮上・飛散	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	◎
不法投棄浸入	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
転落・落下	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
雨水流入	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	△	△	○
スリップ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	◎	◎
腐食	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎（令和５年までは×）	◎

注：安全機能項目の判定　〔◎：機能として十分 ○：機能として十分(初期のみ) △：機能として不十分　×：機能なし〕

【選定基準】

■本市ﾏﾝﾎｰﾙ鉄蓋の仕様書は、日本下水道協会規格（JSWAS G4)で定められている、「基本性能」及び「付加性能」を盛り込んでいる事から、以下の通り優先順位を定めるものとする。

・優先順位①：基本性能（ｶﾞﾀﾂ防止性能、逸脱防止性能）を機能として満たしていないもの。囲い線（赤色）が対象。

・優先順位②：付加性能（不法開放防止性能、圧力解放耐揚圧性能）を機能として満たしていないもの。囲い線（黄色）が対象。

マンホールふた及び内部の調査記録表

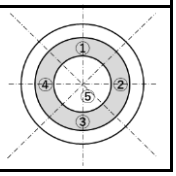
整理番号	

基本情報	点検日	令和　年　月　日	天候		記録者		
	処理区分		図枠				
	管路区分	□幹線　□枝線	下流管路番号		マンホール番号		
	道路種別	□国道　□主要道　□一般県道　□一般市町村道　□私道　□借用　□その他					
	占用位置	□車道　（□わだち　□車線中央　□路肩　□植樹帯　□中央分離帯）　□歩道　□その他					
	道路幅員	□5.5m以上　□5.5m未満	すりつけ	＋　・　－　cm			
	舗装種別	□ＡＳ　□ＣＲ　□平板　□砂利道　□その他					
	エリア特性	□バス通り　□重量車両通行多　□ビルピット付近　□特殊排水　□その他　※複数選択可					
	段差落差	□無　□有	副管	□無　□有			

マンホールふた	基本情報	ﾏﾝﾎｰﾙふたﾀｲﾌﾟ（変遷表）		製造年		製造ﾒｰｶｰ	
		ふた呼び径	□300 □400 □500 □600 □900 □その他	材質	□FCD □FC □CR □不明		
		支持構造	□平受け　□緩勾配受け　□急勾配受け	耐荷重種別	□T-25 □T-20 □T-14 □T-8 □不明		
		上部壁～GL間距離　cm		調整リング	cm　×　枚	cm　×　枚	

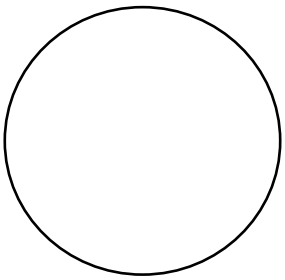
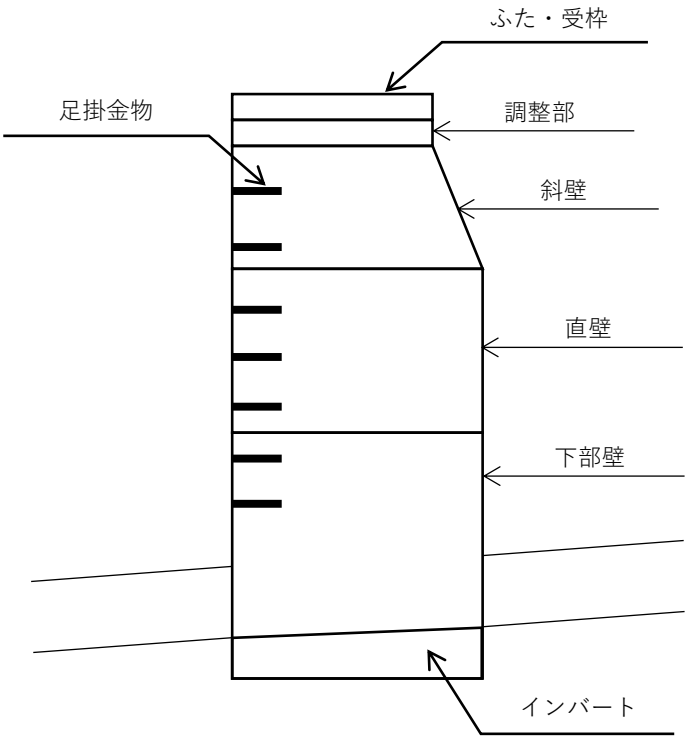
点検・調査項目		点検・調査内容		点検・調査結果 A	B	C	D	E
設置基準適合性	耐荷重種類別	歩・車道別による設置状況					―	
	浮上・飛散防止機能	浮上・飛散防止の機能				―	―	
	転落・落下防止機能	転落・落下防止の機能			―	―	―	
機能支障	浮上・飛散防止機能	機能の作動			―	―	―	
	不法投棄・侵入防止機能	専用工具以外の利用による開閉			―	―	―	
	転落・落下防止機能	機能の作動			―	―	―	
	開閉機能	機能の作動					―	
性能劣化	外観	クラック・欠け			―	―	―	
	がたつき	車両通過音・足踏みによる動き			―	―	―	
	表面摩耗（模様高さの計測）	表面摩耗の状態			―			
		①　mm	②　mm					
		③　mm	④　mm					
		⑤　mm	平均　mm					
	腐食	錆出し表示の状態		―		―	―	
	機能の作動	浮上防止	作動状況		―	―	―	
		錠構造			―	―	―	
		転落防止			―	―	―	
	ふた・受枠間の段差	ふた・受枠間の段差			―	―	―	
	高さ調整部の損傷	欠け・充填不良・クラック			―	―	―	
集計欄								
周辺舗装	周辺舗装の損傷				―	―	―	
	ふた・周辺舗装の段差				―	―	―	
集計欄					―	―	―	

施設	判定結果		判定	考察
マンホールふた	継続使用	異常なし		
		改築必要		
	措置	応急措置の有無		
		措置内容		

備考	表面摩耗計測点
	

	基本情報	ﾏﾝﾎｰﾙ種別		ﾏﾝﾎｰﾙ深	m		
	部位	異常項目	点検・調査結果			備考	
			A	B	C		
マンホール	調整部	調整部状況					
	斜壁	腐食					
		破損					
		クラック					
		隙間・ズレ					
		浸入水					
		木根侵入					
	直壁	腐食					
		破損					
		クラック					
		隙間・ズレ					
		浸入水					
		木根侵入					
	下部壁 (管口含む)	腐食					
		破損					
		クラック					
		隙間・ズレ					
		浸入水					
		木根侵入					
		たるみ					
	足掛金具	腐食・劣化状況				足掛本数	本
		欠落				不良本数	本
	インバート	インバート状況			ー		
	全体	臭気					
流下状況		油脂・モルタル・土砂等の堆積状況					

流入流出管図



概略図